

平成 27 年度 国立中央青少年交流の家

## 教員免許状更新講習～学校教育における体験活動の効果的な進め方～

平成 27 年 10 月 31 日（土）～11 月 1 日（日） 1 泊 2 日

### ○目的

児童生徒の「生きる力」を育む上で重要な体験活動による教育活動をより一層充実するために、体験活動の意義や指導に関する知識・技術を習得する。

また、喫緊の教育課題である防災教育等を含む安全教育について、体験活動の視点から理解を図る。



### ○参加者

小・中・特別支援学校教諭 計 23 名

### ○事業の内容

#### （1）「教育の現状と課題」（講義）

講師：静岡県教育委員会義務教育課長 林 剛史 氏

教育をめぐる現状と課題，国・県の教育政策の動向，これからの教員に求められるものについて学んだ。特に学校現場の多忙化や教員の年齢構成の二極化と高度情報化の説明が行われ，今後教師に期待される学校教育についての提言があった。



#### （2）「体験活動と安全教育」（講義）

講師：国立中央青少年交流の家 所長 服部 英二

野外活動を「事前，活動，事後」に分け，その時々に関心者が配慮すべき注意事項や，特に事故につながりやすい「気をつけよう 3 要素」について学んだ。

また，「KYT シート」を利用して，危険を事前に予知するトレーニングを行った。



#### （3）『参加型学習』の計画と指導・アクティブラーニングと体験型授業」（講義・演習）

講師：NPO 法人体験型科学教育研究所 専務理事 古川 和 氏



研修室内でできる実習を中心に行い，学級作りや授業のヒントになるプログラムを多数体験しながら，学びを促進するアクティブ・ラーニングの重要性について学んだ。アンケートには，「場の設定を工夫することで，どんな授業でも参加型学習にできることがわかりました。」などの感想があり，学校現場で活かせる内容であった。

#### (4) 『『キャンドルのつどい』の進行とレク指導』(実習)

講師：国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 吉野 達也

補助講師：居場所づくり研究所 代表 田井中 正志 氏

学校の集団宿泊活動で人気の高い夜のプログラムである「キャンドルのつどい」の進め方と、具体的なレクリエーションの内容や指導方法を学んだ。

参加者からは、「簡単なアプローチで、他の先生との距離感が急速に縮まるのを実感することができた」などの声が聞かれ仲間との和を深められた研修となった。



#### (5) 『『防災教育』の充実を図る指導方法』(講義・実習)

講師：国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 吉野 達也, 舘 健一



基本的な野外炊事の方法を身につけるとともに、災害時に役立つ調理方法の実習を行った。また、中央青少年交流の家の活動プログラムである「防災ラリー」を紹介し、防災力の意識を高める指導方法を学んだ。

①牛乳パックでホットドッグ ②アルミ缶を使った炊事  
③防災ラリー（「みんなで脱出」「伝言ゲーム」「ロープワーク」「防災クイズ」）の知識と体験の両面から学び、防災教育の充実を図る指導法を学ぶ機会となった。

#### (6) 『学校教育における体験活動』(講義)

講師：國學院大學人間開発学部初等教育学科 教授 杉田 洋 氏



体験活動の充実が求められている背景、新学習指導要領で重要とされた体験活動の内容とその教育的意義、言語活動と体験活動の関連について講義を受けた。また、異年齢集団による触れ合いの充実を図っている様子などが、ビデオやスライドで紹介され、感動的なシーンに涙ぐむ受講者が多く見られた。

#### 《受講生の感想から》

- 時間的にはハードですが、2日間の日程なのでその方が参加しやすかった。
- 学校現場で活かせるだけでなく、日常生活においても使える知識や技術を多く得ることができました。普段聞けない貴重な先生方のお話が聞けてよかったです。
- 知らないことや、経験したことがないことを多く学ぶことができ、有意義でした。講師の先生方の充実度が高いと思います。

#### 《成果と課題》

- 素晴らしい講師の指導により、受講生から高い評価を得ることができた。
- 野外活動と防災教育を結びつけ、学校現場で興味を引く教育プログラムとして、紹介することができた。
- 今年度は1泊2日（1泊減）の日程に変更したため、受講者を定員以上集めることができたが、日程がタイトになった分、受講者や担当者の負担が増した。